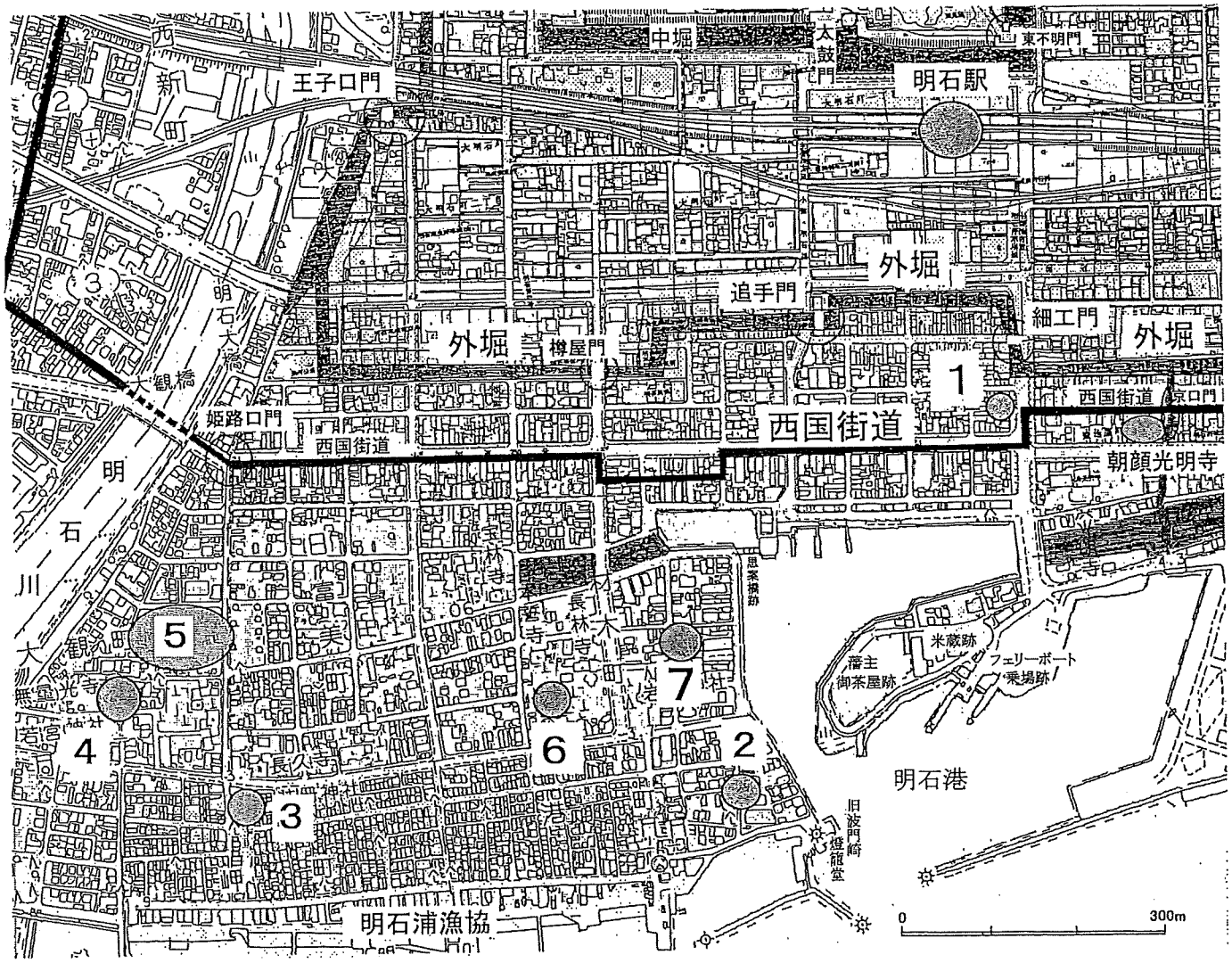
2023年11月18日（土）　9:30～12:30

あかし歴史のまち「文化財ウォーク」

明石浦漁協周辺と源氏物語ゆかりの地を巡る

明石市文化・スポーツ室　歴史文化財係



行程図

＜ 行程表 ＞

【 集合 】 明石駅 9:30

【 1 】明石市道路元標 9:40 （中里氏）

【 2 】築山 10:00 （中里氏）

稲荷大明神 明石浦漁協同組合 （金井氏）

【 3 】伊弉冊神社 10:30 （金井氏）

【 4 】無量光寺 蔦の細道 10:40 （中里氏）

【 5 】善楽寺 10:55 （吉川氏）

平清盛五輪塔 明石入道碑

円珠院庭園 11:00 （吉川氏）

【 6 】浄行寺 11:20 （稲原）

【 7 】旧船町の家 11:30 （義根）

【 解散 】

解説者 観光協会・ぶらり子午線観光ガイド 中里氏　ヘリテージ明石 吉川氏、田中氏

生船研究会 金井氏　あかし市民図書館 宮本氏　歴史文化財係

道路元標（げんひょう）

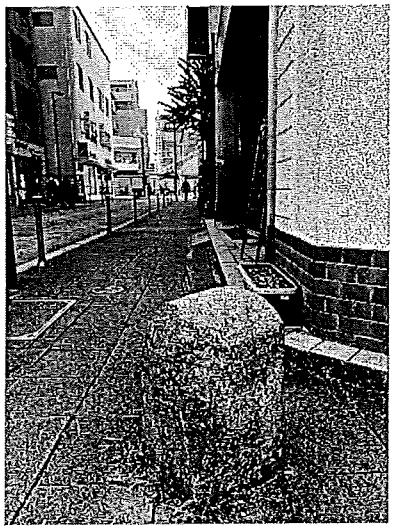
道路元標は道路の基点・終点や経過地点を示していた標石です。

文明の発達とともに移動手段も徒歩から鉄道、自動車と変わり 1920 年（大正 9）年に「道路法施行令」が制定され、各市町村に 1 個、主に役場前や主要道路の交差点に設置されました。

大正 8 年（1919）11 月に誕生した明石市は現在の明石川より東岸の範囲だけでしたが、江戸時代初めの城下町建設時から町の主要道であった西国街道と、明治 21 年（1888）に開通した山陽電鉄の明石駅から南にのびる駅前通りとの交差点西側にこの道路元標が設置されました。その後、昭和 8 年（1933）に現在国道 2 号となっている神明国道が開通したことにより、道路元標も神明国道と駅前通りの交差点に移設されました。

この道標も、国道 2 号の拡幅工事の際、ようやく当初設置に近い位置に落ち着いています。

市内にはかつて、この明石市以外に林崎村、大久保村、魚住村、二見村の 4 カ所に設置されていましたが、残念ながら林崎村と二見村の道標は見当たらず、大久保駅北と魚住長坂寺のものが健在です。お近くに行かれたら、ぜひ探してみてください。



大久保村道路元標

魚住村道路元標

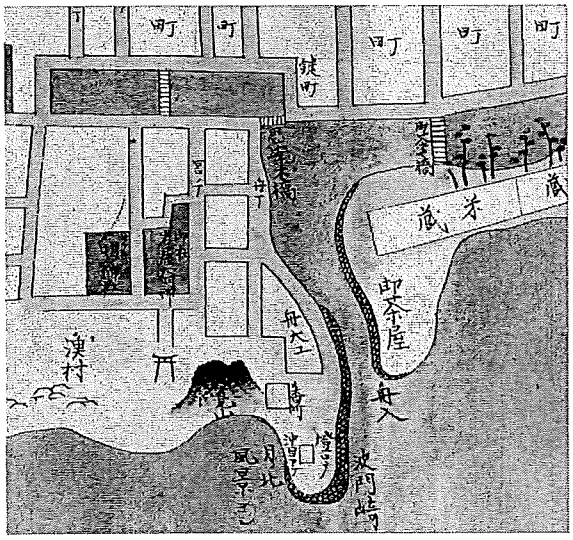
築山（月山）

築山は旧波門崎燈籠堂西側の小高い丘をさします。

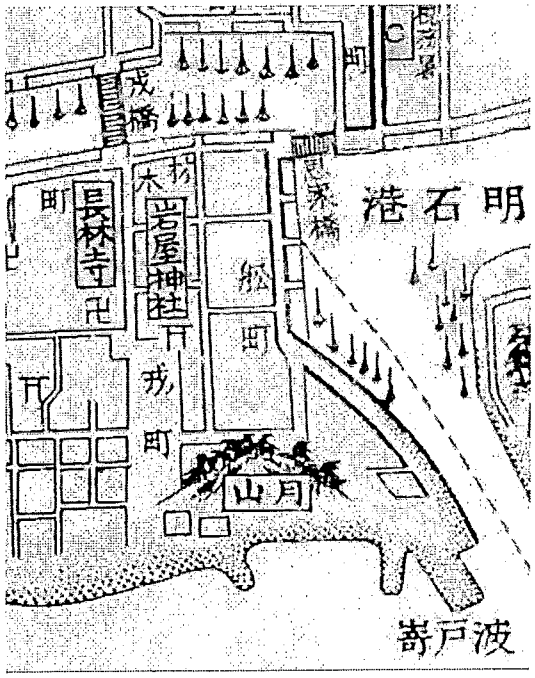
万治年間（1658～1661）、六代藩主松平信之が港内の浚渫工事のとき、海中の砂を積み上げてできた丘と言われています。

対岸の御茶屋とともに見晴らしが良いため、人々はこの丘に登り、明石の瀬戸を眺めました。特に月見にはうってつけの場所で、中秋の名月の夜などは酒肴をたずさえ、観月の宴を開いたといわれています。

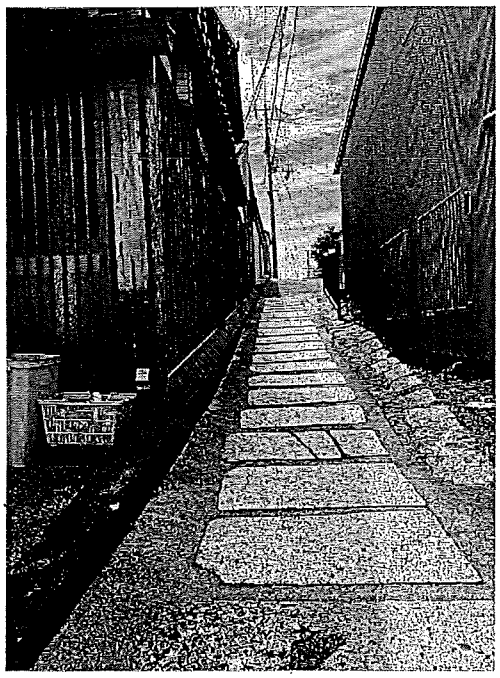
須磨に月見山という地名が残りますが、‘月’をきっかけに紫式部は『源氏物語』を「須磨」「明石」の巻から書き始めたとされ、淡路島を借景とするこの風景は、聖地巡礼にふさわしい地と言えるかもしれません。



「播磨国絵図」（聖心女子大学図書館蔵）より



明治 36 年発行「明石名称旧跡案内図絵」

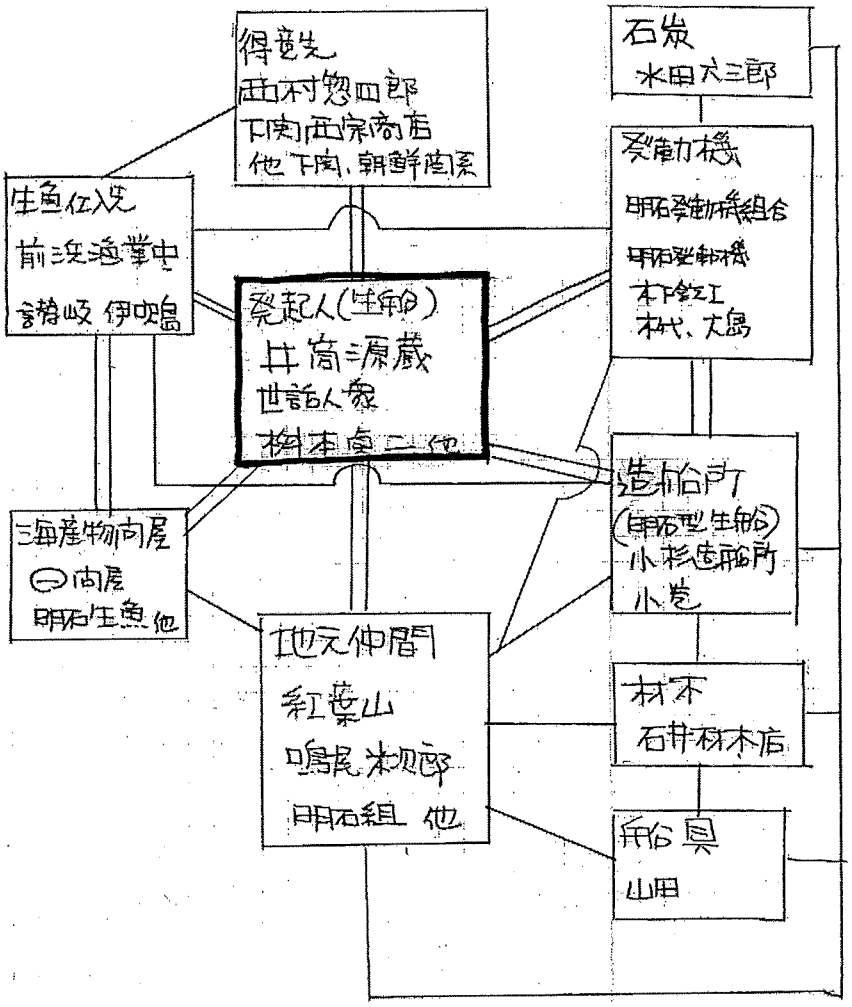


岬森神社（稲荷神社）　寄付芳名録　大正十年十二月再建　（１９２１年）

	刻印名称	住所	職業	寄付金	現在（２０２０年）
1	明石市発動機組合中	明石市	発動機	１００円	
2	前濱漁業中	東戎町	漁師	５０円	兵庫県漁連　明石浦漁業協同組合
3	西村惣四郎	下関市	海産物問屋西宗商店、一丸捕鯨	５０円	
4	岸本宗之助	大明石町	金陵食品、明石製氷	３０円	金陵食品
5	明石生魚合資会社	東本町	生魚問屋	３０円	
6	大鳴鉄工所	船町	発動機（タンク）	３０円	２０１０年まで大島水道
7	明石発動機工作所	東戎町	発動機	３０円	(株)明石発動機工作所
8	木代鉄工所	材木町	発動機	３０円	(株)キシロ
9	兵庫大徳			３０円	
10	松岡益太郎	朝鮮	（生船関係）	３０円	
11	金井運送店	下関市	（生船関係）	３０円	
12	安森金蔵	下関市	(生船関係）	３０円	
13	吉田大吉	讃岐	伊吹島　網元	３０円	
14	三好大吉	讃岐	伊吹島　網元	３０円	
15	岩田松平	讃岐	伊吹島　網元	３０円	
16	水田六三郎	船町	水田商店、石炭商	３０円	(株)水田製作所
17	小杉造船所	船町	造船所、機帆船	３０円	宗田造船(株)
18	小巻造船所	船町	造船所、小型木造船、日向屋	２０円	
19	木下鉄工所	錦江町	発動機	２０円	(株)阪神内燃機工業
20	明石組	東仲ノ町	運送	２０円	
21	近藤厄太郎		大工	２０円	
22	吉川石材店	材木町	石材	２０円	
23	室木春吉	兵庫		２０円	
24	山地眞一	讃岐（三豊）	（海産物、生船）	２０円	
25	三好文司	讃岐(伊吹島)	伊吹島　明石型生船久吉丸	２０円	
26	三好福治	讃岐(伊吹島)	伊吹島　網元	２０円	
27	三好方吉	讃岐(伊吹島)	伊吹島　網元	２０円	
28	井筒安蔵			１５円	
29	明石塩魚仲	明石市	（生船）	１０円	
30	平野栄吉	東仲ノ町	生魚	１０円	
31	紅葉山	新浜	俠客	１０円	
32	鳴尾米次郎	樽屋町	運送、土木　鳴尾組	１０円	
33	白木長次郎	東本町	帆布、船具	１０円	
34	福井平次郎	東本町	船舶用金物	１０円	
35	徳田安吉			１０円	
36	八百清	東本町	海産物問屋	１０円	
37	橋本長太郎			１０円	
38	服部林蔵	大蔵三丁目	海産物問屋	１０円	
39	山田政吉	船町	櫓、櫂、艫製作	１０円	
40	福田清蔵	東戎町	小型木造船	１０円	
41	山崎國松			１０円	
42	福嶋種吉			１０円	
43	山根芳太郎			１０円	
44	横田久	高松	発動機　横田鉄工所　創業者	１０円	(株)マキタ
45	林虎吉			７円	
46	丸一問屋	中町	海産物問屋　中濱清三郎	５円	
47	玉垣源兵衛	樽屋町	精錦	５円	
48	安藤船具店	船町	船具	５円	
49	川栄嘉吉			５円	
50	井筒平吉			５円	
51	伊藤音吉			５円	
52	白川孫助	錦江町	燈草	５円	白川商店
53	佐藤種吉			５円	
54	田口角太郎	上水町	セメント	５円	田口建材
55	田中佐吉			５円	
56	三由亀吉			５円	
57	吉川伊之吉	一番町	石炭	５円	
58	石井材木店	林崎	材木（木造船）	５円	ランバー石井
59	大前金蔵			５円	
60	徳田和助			５円	
61	林庄吉			５円	
62	丸尾政治			５円	
63	福田辰蔵			５円	

64	井筒重吉			5円	
65	丸尾國松			5円	
66	山田熊吉			5円	
67	河合太吉	船町	質屋	5円	
68	酒井友三郎	材木町	質屋	5円	
69	濱田豊吉			5円	
70	松栄すし	鍛冶屋町	料理屋	5円	
71	二宮金二郎	船町	セメント	5円	
72	岡宇一			5円	
73	福田英太郎			5円	
74	松井惣次郎	高砂		5円	
75	真鍋義三	諏岐	（生船関係、伊吹島、観音寺）	5円	
76	合田松蔵	諏岐	（生船関係、伊吹島、観音寺）	5円	
77	三好和一	諏岐	（生船関係、伊吹島、観音寺）	5円	
78	飯井清蔵	諏岐	（生船関係、観音寺　網元）	5円	
79	合田市蔵	諏岐	（生船関係、伊吹島、観音寺）	5円	
80	三好荘介	諏岐	（生船関係、伊吹島、観音寺）	5円	
81	濱崎角蔵　世話人	東戎町	海産物、山房	５０円	
82	戎熊吉　世話人	東戎町	桶、樽	５０円	
83	伊藤徳三郎　世話人	東戎町		４０円	
84	今津藤吉　世話人	東戎町		３０円	
85	川崎豊吉　世話人	東戎町		１０円	
86	朝川勇蔵　世話人	東戎町		１０円	
87	朝川兼石　世話人	東戎町		１０円	
88	増田徳松　世話人	東戎町		１０円	
89	新田鹿蔵　世話人	東戎町		１０円	
90	井筒源蔵　発起人	東戎町	鮮魚運搬、生船	３００円	
玉垣の刻印					
91	久吉丸		９０井筒源蔵さんの持ち船、発動機は木下鉄工、２５三好文司さんの明石型生船も久吉丸		
井の刻印					
92	桝本貞二	東戎町	鮮魚運搬、生船		桝本海運
93	桝本為吉	東戎町	鮮魚運搬、生船		
94	安井嘉市郎				

岬森神社（稲荷神社）石碑の人物相関図



井筒源蔵氏

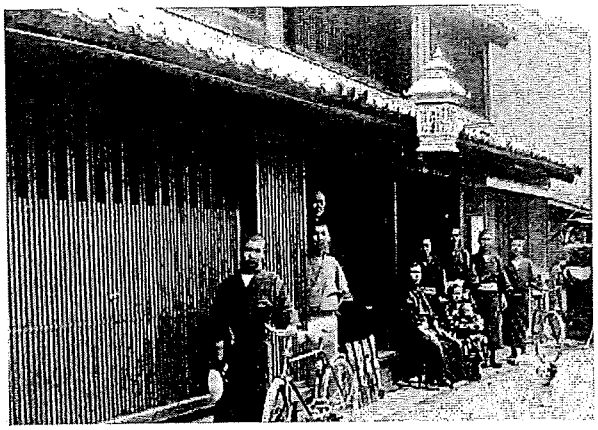
稲荷神社再建の発起人　鮮魚運搬生船業者であり　寄付している人は氏の取引先が多いようです　玉垣に刻まれている「久吉丸」は氏の持ち船（明石型生船）の船名です

桝本貞二氏

鳥居に名を刻んでいます、桝本家は明治４年創業の生船業者で当主は代々桝本市兵衛を名乗っていました。戦後桝本海運産業（株）として外航船に転じ自動車運搬船、タンカー、ばら積貨物船などを所有しています、本社は明石を動かしていません。

西村惣四郎氏

下関の海産物問屋西宗商店創業者、下関水産会社、下関製罐所、下関市会議員、トロール漁業、一丸捕鯨、以西底曳網漁業、鮮魚運搬、南洋開発などを手掛ける下関の大富豪



明治時代の西宗商店

明石市発動機組合中　組合ができるほど明石の発動機会社が多くなっています、生船向けの需要が多いのでしょうか。神戸発動機などとともに下記日本漁船発動機協会の主要メンバーになっています。

昭和 11 年　日本漁船発動機協会総会　於神戸商工会議所

木下鉄工所　日本の内燃機産業の先駆者で明石の発動機産業をけん引しています、大正３年全国２位の発動機生産高を誇っています。井筒さんの生船にも発動機を提供しています

大正１４年　１２月　第拾壱久吉丸　７０馬力

大正１４年　９月　第二神勢丸　２０馬力

昭和３年　４月　船名不明　２０馬力

木代鉄工所　は木下鉄工所とともに明石発動機界の双璧と言われて多くの生船に発動機を供給しています

明石発動機工作所　小杉造船所が造る生船向けに発動機を供給していました、祖父から朝鮮向もたくさん作っていたと聞きました。

大島鉄工所　発動機始動用の空気圧縮機タンクを作っていました。

槇田久　高松の槇田鉄工所の創業者　現在㈱マキタもジーゼルエンジンを造っています

前濱漁業中　東戎町の漁師町の別称、岩屋神社の前で前濱と呼ぶ。岩屋神社より西の漁師町を新濱と呼びますが江戸時代の漁場争の古文書には前濱、新濱と分けて書かれてあります。

いかなご、たい、たこ、あなごなど明石のブランド魚を採っています、新濱は一本どっこと言われ、多人数で組んで採るいわし漁はやりません。

家族、親類が協力していたようです、東戎町の生船業者が大坂雑喉場へ運びイチアケ、明石のマエモンとして高価で取引されていました。

いかなご（玉筋魚）は昔から明石の名物なのですが最近めっきり採れなくなっています、その分明石海苔が伸びてきています　漁獲高の推移を参照。

漁業従事者も最盛期の昭和 43 年に比べると半分以下になっています。

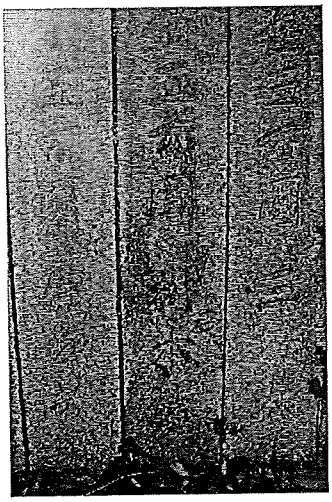
明石の漁獲高の推移

年度	1940年	1950年	明石浦 1959年（昭和34年）		明石浦 1968年（昭和43年）		明石浦 1978年（昭和53年）		明石浦 1988年（昭和63年）		明石浦 1997年（平成9年）		明石浦 2007年（平成19年）	明石浦 2017年（平成29年）	
総合計　トン			7,907	2,697	12,439	6,386	14,450	4,618	5,774	2,084	3,521	1,511	3,903	2,624	
いかなご	1,197	2,108	3,637	1,711	9,591	5,410	3,955	2,148	1,864	407	668	208	394	28	
いわし			1,259	4	127		369		1,331		656	37	759	919	
あなご			149	88	174	96	114	55	103	87	70	59	82	8	
たい			22	6	10	1	2		25	21	22	9	170	277	
たこ			800	131	533	126	533	211	991	580	799	318	1,209	788	
かれい類			408	378	395	359			120	91	112	83	196	8	
いか類			265	18	52	21			21	21	51	42	77	114	
えび類			42	23	19	15	6	5	108	98	97	93	128	48	
その他　枚			651	327	1,096	336									
貝類			686		473	10	416	64	80	39	37	35	28	44	
海苔					6,290	13	265,445		520,223		749,577	160,324	236,689	818,593	
漁業世帯		805	984	328	892	320		309							
漁業従事者			1,563	500	1,539	791	1,392	507	1,231	433	1,110	402	874	934	320
漁船		648	873	270	757	254	1,198	356	1,164	380	1,234	373	1,025	957	

讃岐　伊吹島　三好姓が多く出てきます、この人たちは観音寺市伊吹島の網元らしいことがわかりました。調べていくと伊吹島の人たちと明石の生船業者の古いつながりがわかりました。今は伊吹イリコで全国に名を馳せていますが、燧灘の海域は鯛がたくさん獲れれていました。また伊吹島の人た

ちは遠く朝鮮海域、東シナ海まで漁に出て、伊吹島の生船業者が明石まで来ていました。明治４０年伊吹八幡神社隋神門再建寄付依頼に伊吹島から大阪、西宮、堺、明石を巡回した記録に明石の有木久八氏が名を記しています。江戸時代からの交流があったようでこれから調査をしていこうと思っています。

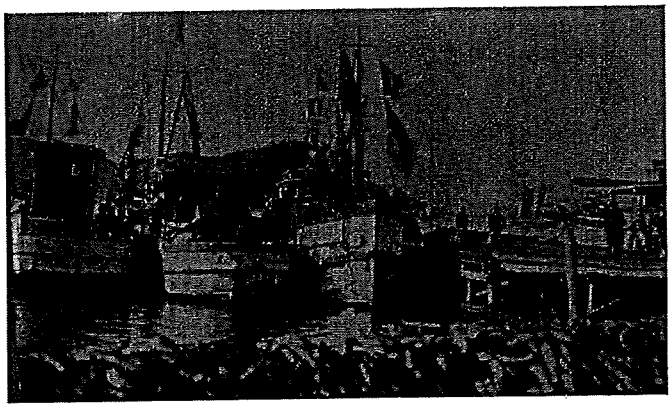
昭和３０年代には八幡神社屋根葺き替え寄付にも明石材木町の桝本法久氏（桝本海運）の名があり昭和６１年までの記録があります。



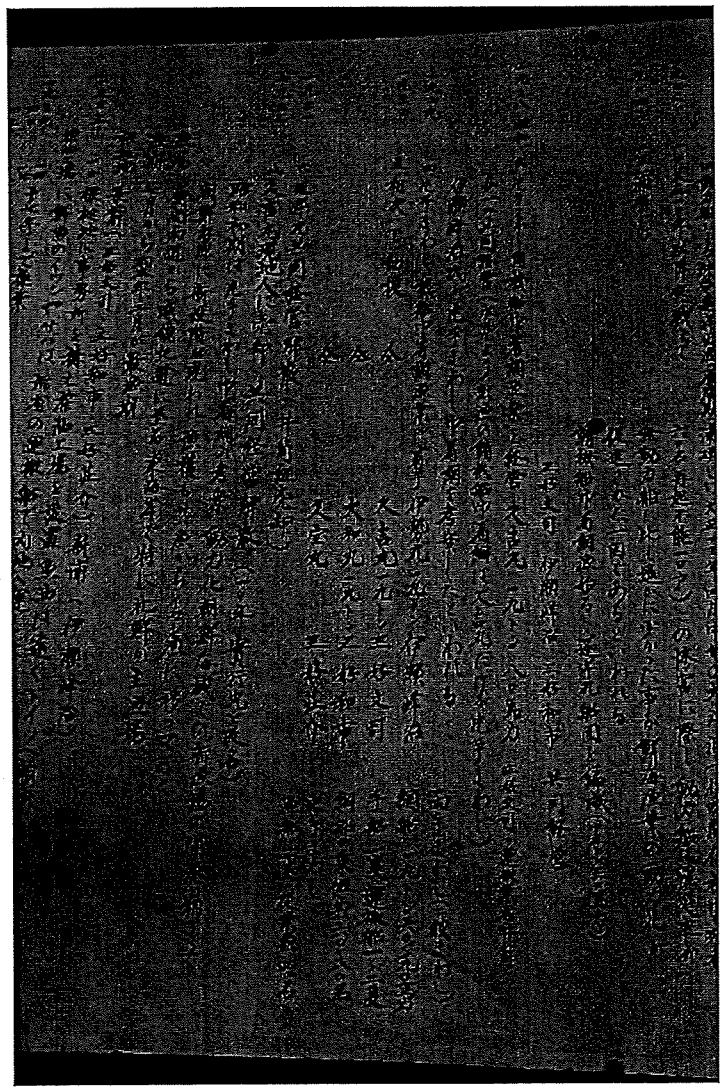
三好文司さんは讃岐の大北造船所で明石型生船を作っています「久吉丸」は井筒さんの持ち船と同じ名前です。

昭和３年（１９２８年）　伊吹島の三好文司さんと明石の生船業者井筒与一さんは鯖機船巾着網漁業を共同経営しています

運搬船（明石型生船）は久吉丸　１９トン　８０馬力　です



右端は明石型生船　久吉丸　伊吹島



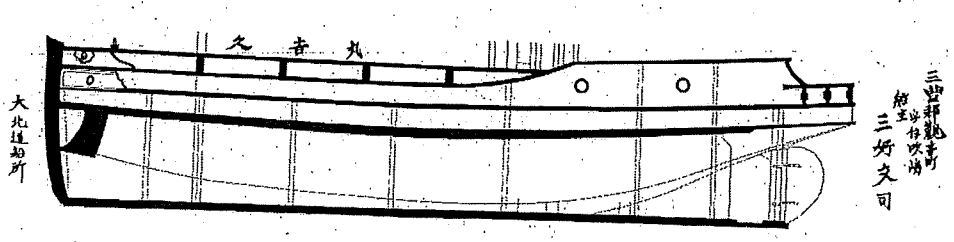


図 478 ナマセン

図 478	ナ マ セ ン	大正13年 (1924)	① 板 図・墨 ② 197.0×33.4×0.9 ③ 側面図, 1/10 ④ ⑤『三豊郡観音寺町字伊吹浦 船主 三好文司 久吉丸 大北造船所』 ⑥ 鮮魚運搬船。明石型ナマセンと呼ぶもので図474・図475に次いで流行した船型。 ⑦ 大北応義 ⑧ 瀬戸内海歴史民俗資料館 ⑨ 0053A

香川県観音寺市　伊吹島

水田六三郎　船町の豪商　石炭問屋水田商店の創業者　現水田製作所につながります。

紅葉山　新浜の親分　元関取の侠客

鳴尾米次郎氏　土木、運送業鳴尾組、元明石市会議員

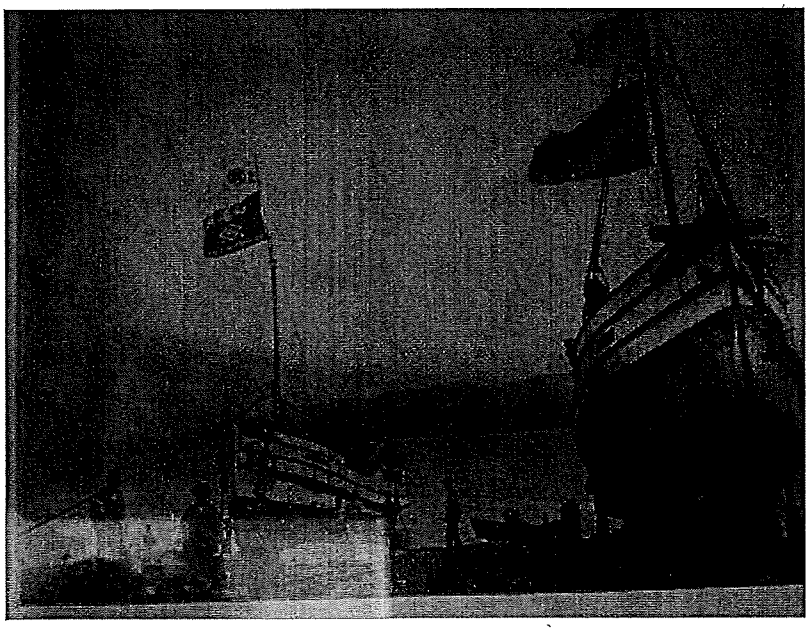
岩屋神社の秋祭りお先太鼓を担当していました

米騒動の時木下鉄工所、山本米穀店の警護に出動、2尺7寸の日本刀の抜き身を構え15人を従えて警戒に当たっていました。

小杉造船所　中部幾次郎の新生丸を作りました。明石型の板図は各地から修行に来ていた船大工によって淡路、讃岐に伝わっていきました。

現在宗田造船所です。

小巻造船所　江戸時代からある明石の名門造船所、初代は藩主に従って九州からやってきたので屋号は「日向屋」



新浜　明石型生船の進水式　昭和16年　宗田造船所　　旗より発動機は日本発動機です

石井材木店　明治時代は材木町、現在硯町にあります、主に木造船用材木、日向の弁甲材、飫肥杉を扱っていました。

神戸、明石の船舶発動機メーカーの盛衰

１８９８年（明治３１年）　国産初舶用石油エンジンの制作
池貝鉄工（東京、明治２２年創業）は東京墨田川巡行汽船向けに
４馬力のエンジンを５台製作

１９０５年（明治３８年）木下鉄工所（明石）創業、ユニオン型舶用石油エンジン製作

１９０６年（明治３９年）明石の　林兼商店　中部幾次郎（大洋漁業創立者）
は初めて発動機付き鮮魚運搬船「新生丸」を作る
大阪の清水鉄工所製ユニオン型８馬力石油エンジン搭載
のち明石型生船と呼ばれる独特の美しい姿の木造船

１９０７年（明治４０年）　発動機製造（大阪）創業　のちのダイハツ

１９１０年（明治４３年）　神戸発動機（神戸）創業　ボリンダー型発動機

１９１４年（大正３年）　木下鉄工所（明石）は発動機製作台数全国２位　２１２台

１９１５年（大正４年）　きしろ発動機（明石）創業　現キシロ

１９１８年（大正７年）　阪神鉄工所（神戸）創業　現阪神内燃機工業

１９１９年（大正８年）新潟鉄工所（東京）国産第一号舶用１００馬力ディーゼル機関
日本発動機（神戸）創業明治３８年の西谷鉄工所が改称

１９２０年（大正９年）　明石発動機工作所（明石）創業　機帆船、生船向け小型焼玉機関

１９２４年（大正１３年）　山名鉄工（明石）創業　現山名總鉄酸素

１９２５年（大正１４年）　山岡発動機工作所（大阪）・大正６年創業　舶用５馬力石油発動機製作　ヤンマーフォードと称する

１９３０年（昭和４年）　明石内燃機製作所（明石）旧人丸鉄工所創業
現コマツ、ヤマハ等代理店

１９３１年（昭和５年）　岩永鉄工(明石)　創業　現ヤンマー代理店

以降　明石に焼玉機関のメーカー創業多いが現在は消滅

１９３５年（昭和１０年）　神戸発動機（神戸）世界最大６気筒９００馬力焼玉機関製造

１９５０年（昭和２５年）　発動機漁船の馬力数　焼玉　１，４０１，２５８
ディーゼル　４９３，１２６

１９５６年（昭和３１年）　発動機漁船の馬力数　焼玉　１，１７２，２８７
ディーゼル　１，４３２，５７５
以降焼玉機関の衰退

１９６５年（昭和４０年）　阪神内燃機工業（神戸）は木下鉄工（明石）と合併

２０１７年（平成２９年）　明石で舶用発動機メーカーは
阪神内燃機工業と神戸発動機（現ジャパンエンジンコーポレーション）の２社

焼玉発動機の思い出

㈱明石発動機工作所顧問　金井　清

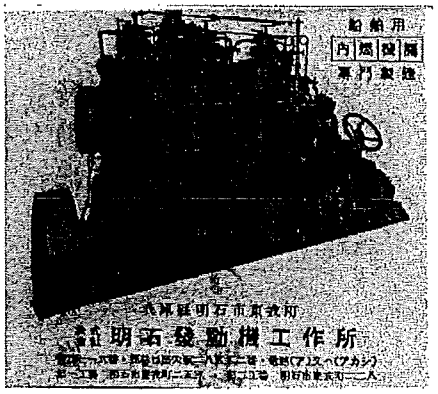
２０２１年１０月２０日

１００年前から明石港の西側、船町、東戎町と呼ばれた地区は焼玉発動機の工場がたくさんできました。大正３年明石の木下鐵工所は全国第２の生産高を記録しました。私の祖父はその木下鐵工所で修行し独立しました。明石発祥の活魚運搬船「明石型生船」や機帆船向けの焼玉発動機を作っていました。明石港に着いた機帆船から修理のため発動機を大八車に載せて工場まで運びオーバーホールをします。完成すると再び機帆船に乗せ換え試運転航海となります、幼かった私は試運転航海に同乗させてもらい明石海峡を淡路島まで心地よい船旅を経験しました。

社内で試運転すると雷鳴のごとく響き渡り近所から苦情が来ていたらしいのです。淡路行の連絡船に乗ってもいつも発動機を眺めていました。昭和３６年頃まで作っていましたが以降は産業機械の製作に替えていきました。他の発動機工場はヤンマー、三菱、などの代理店になって行きました。

この度ご縁があり鳥羽商船高等専門学校にあった単気筒１５馬力焼玉発動機を譲っていただきレストアすることになりました。もうとっくに焼玉を触れる職人もいなくなり私も幼いころの思い出しかなく、四国から森下様、山本様に来ていただきご指導いただきました。６０年ぶりに心地良い音を聞くことができました。明石型生船と共に焼玉発動機は明石の産業遺産なので動態保存して活用できたらと思っています。

明石型生船の進水式昭和１６年宗田造船所



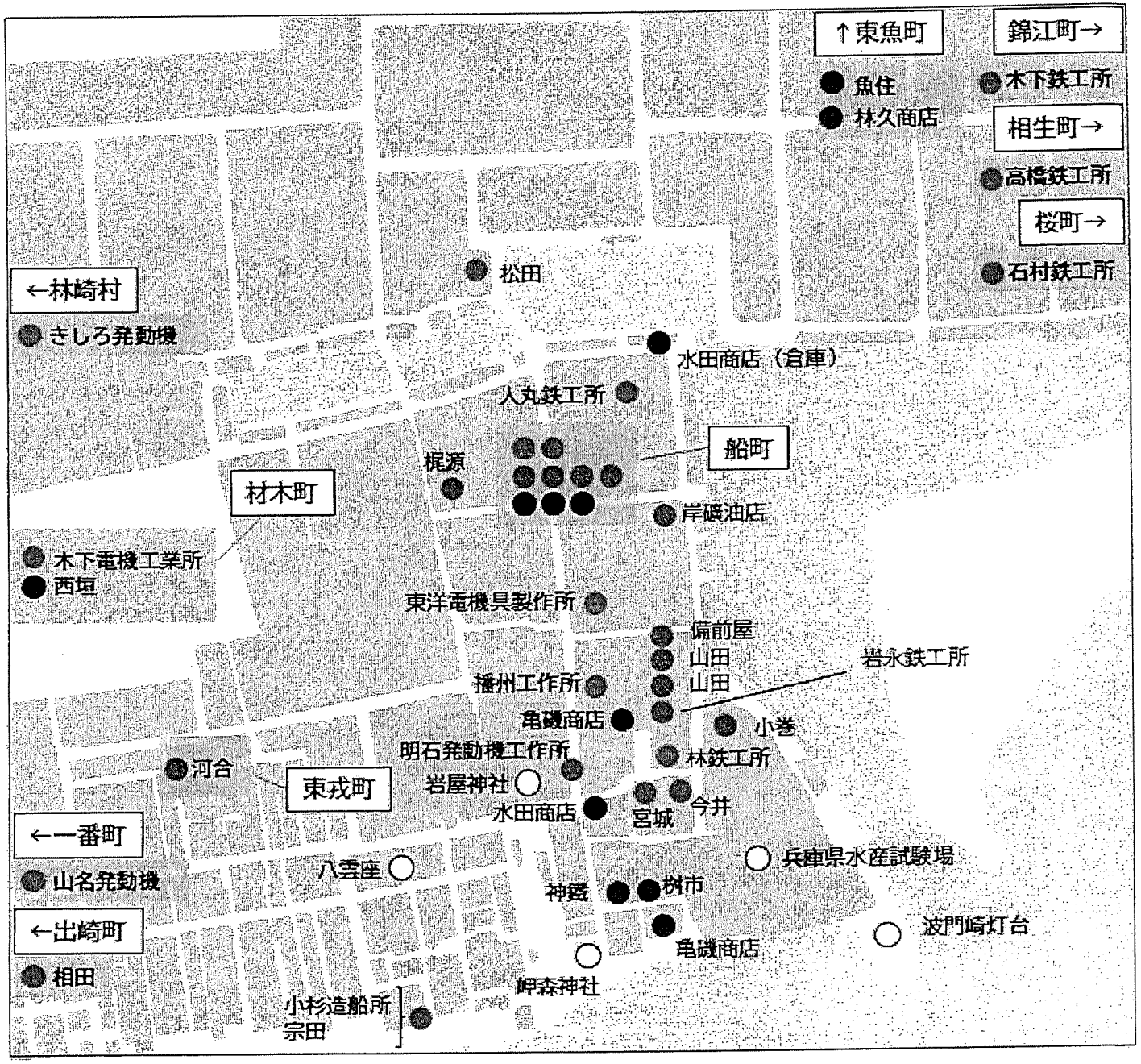
弊社の広告昭和１６年漁船発動機年鑑

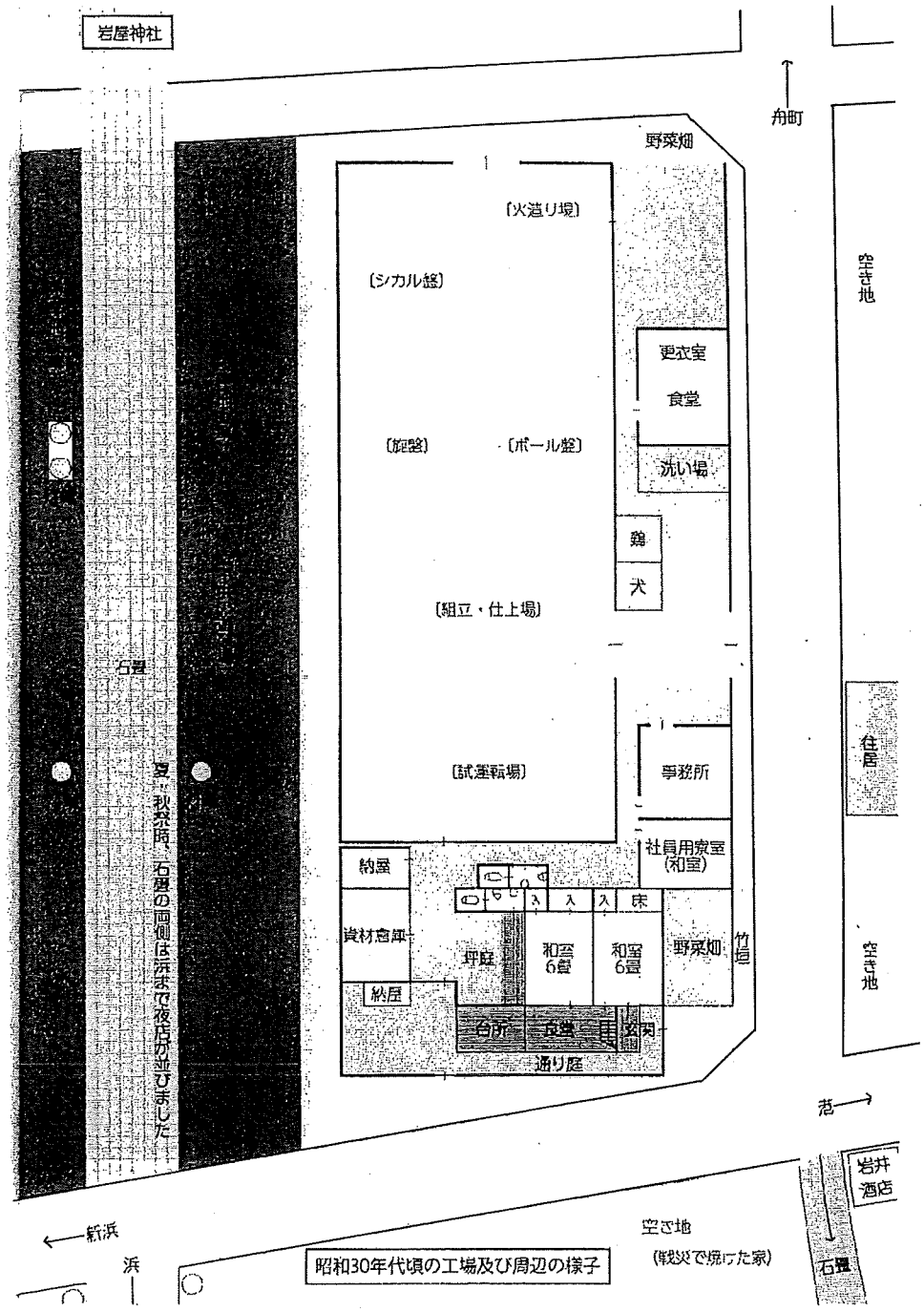
明石港周辺の船関係図

＊昭和11年「土地宝典」の住宅配置をもとに地図を作製

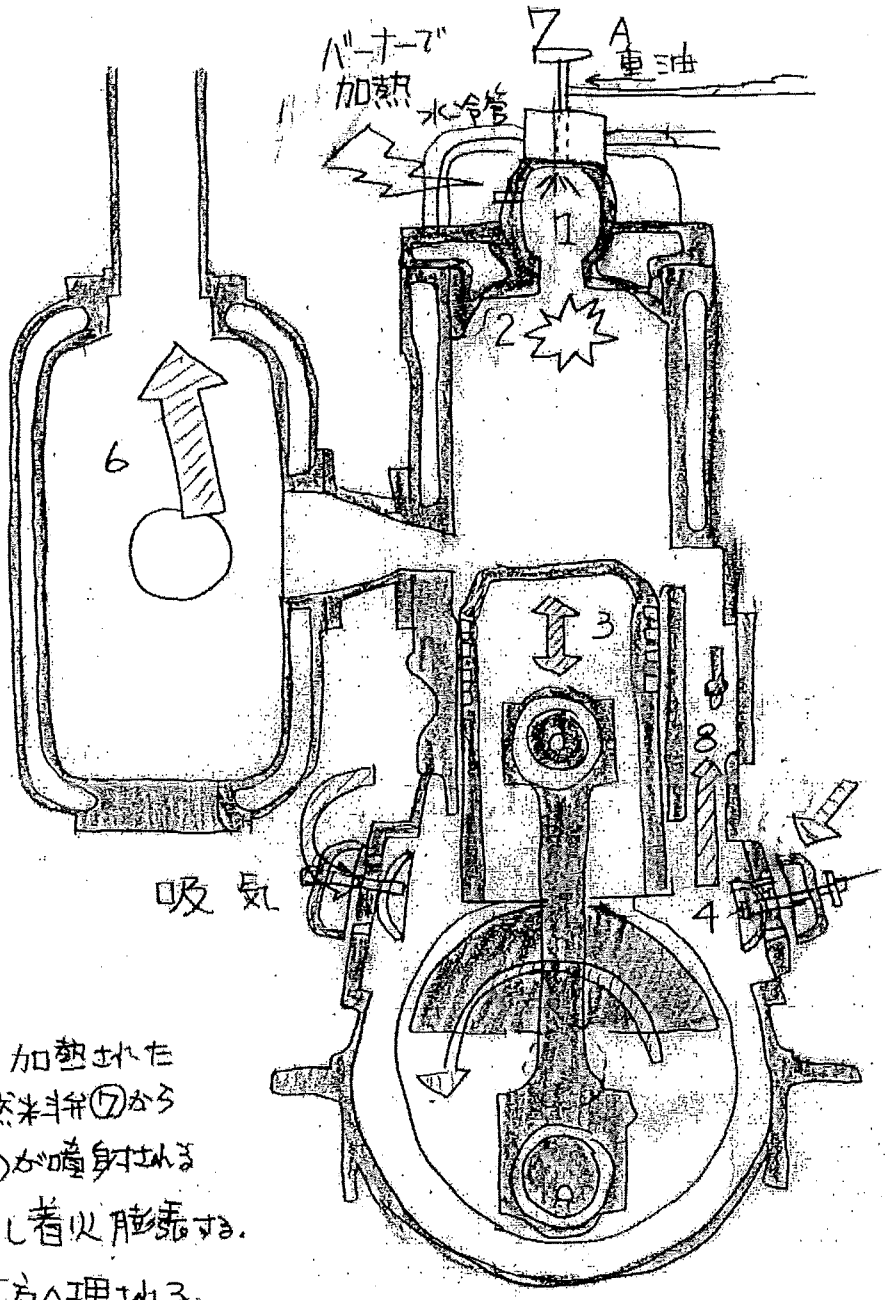
＊工場名等は昭和9年「明石商工名鑑」を参照

- 内燃機関関係（木型、鉄工等含む）
- 造船関係（船具・漁具含む）
- 鮮魚運搬関係（生船）
- 石炭・コークス販売業 ＊機帆船で運搬





上図の右下で防火訓練をしていました、右側の空き地には水田商店がありました。



バーナで外部から加熱された
燒玉① 内に燃料弁⑦から
燃料(A重油)が噴射される
と瞬間に気化し着火膨張する。
ピストン③が下方へ押される。
この時、クランク室④内の空気は掃気通路⑧を通じてピストンが下死点付近
まで下がると掃気ポートが開きガス交換が行なわれ燃焼ガスは排気管⑥から
排出される。

meihatsu
株式会社
明石発動機工作所

伊弉冊神社

祭神　伊弉冊大神　建速須佐之男命

当神社は延喜式内社、明石郡九座の中の一座で、崇神天皇６年に現地に勧請してきて以来、近くの村六カ村の産土神でした。

宝亀2年（771年）に境内四丁四方が赦免地となり寄進され、規模の大きな社殿を造営しました。その後、天文８年（1539年）火災に遭い、当時別当であった善楽寺の僧が相次いで創建しましたが、以前の広さには至りませんでした。

そして、天正年間に、三木合戦のさ中、兵火にかかり、社殿や記録等がすて焼失しました。

現在の社殿は昭和37年（1962）に再建されたものです。

境内には「ミカタタ松」とよばれた霊松がありましたが、枯れて現在は二目の松となっています。

境内には猿田社、稲荷社、琴平社の末社があります。

※明石郡九座
　宇留神社　物部神社　海神社三座
　弥賀多々神社　林神社　赤羽神社　伊和都比売神社

無量光寺　　浄土宗本派の寺で、本尊は阿弥陀如来

慶長 18 年（1613）に益公和尚が開山し、正保年間（1644～48）に江井ヶ島から移ってきたといわれています。

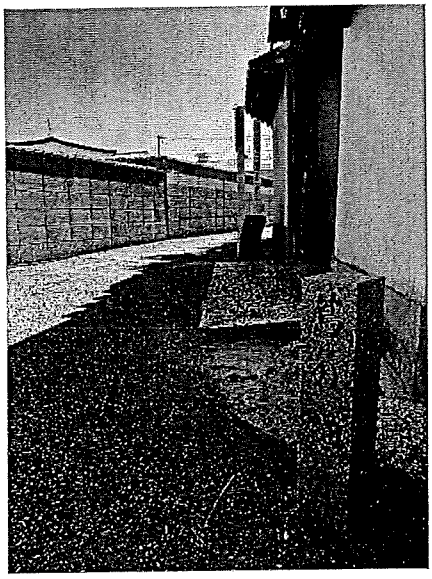
昭和 20 年（1945）の戦災で、山門を除き伽藍、書院、隠居所等すべてが焼失しました。昭和 44 年（1969）に本堂が再建されました。山門は総欅造りで、名工左甚五郎がつくったと伝えていられています。

境内には、源氏稲荷大明神や「日本書紀」にでてくる海士男狭磯の墓とされる「海人塚」の跡を伝える石碑、佐藤春夫の墓などがあります。

大正 8 年（1919）から 9 年にかけて、『出家とその弟子』で著名な作家の倉田百三がこの寺に逗留していました。

『源氏物語』ゆかりの地で、光源氏が月見をしたといわれるところから、山号も月浦山と言います。光源氏が明石の上の住む岡辺の館へ通った時の通路が寺の横にあって「鷲の細道」と名付けられています。

寺宝には、弥陀三尊来迎図（鎌倉時代）、聖観音木像（平安時代）等があります。



天台宗　法寫山（ほうしゃさん）　善楽寺（ぜんらくじ）

〒673-0897　明石市大観町 11-8

善楽寺は、戒光院・円珠院・実相院の総称で、明石では一番古いお寺といわれ、孝徳天皇の大化年間（645 年～650 年）法道仙人によって創建されました。

法道仙人は天竺から薬師如来の化身とされる牛頭天王とともに紫雲に乗ってやってきたといわれ、兵庫県には法道創建の伝承をもつ寺院が多くあります。

『源氏物語』と関係があったという願西尼（がんさいに）が中興した如意寺（にょいじ）や花山院菩提寺（かざんいんぼだいじ）など

平安時代中期の天喜元(1053)年には、住職だった源泉法師が延暦寺座主に着任したり、平安時代末期には十七ヶ院を持つなど発展を極め、寺院も一キロ平方という広大な規模を誇っていたそうです。

元永２(1119)年には火災で堂塔を焼失しましたが、保元元(1156)年に播磨守に任じられた平清盛が善樂寺のすべての堂塔伽藍を再興し、念持仏であった木造の地蔵尊と寺領５００石を寄進しました。

戦国時代の天文８(1539)年にも兵火にかかり堂塔伽藍は消失しますが、文禄２(1593)年に再建されました。

昭和 20 年７月７日にも空襲により、堂塔伽藍すべてが焼失しましたが、昭和 53 年に十王門（山門）が復興するなど、再建が進み、現在に至っています。

戒光院には平清盛を供養したという「平清盛五輪塔」
源氏物語に由来する「明石入道の碑」「浜の松の碑」があります

円珠院には、宮本武蔵が作庭したと言われる枯山水の一部があります。

明石入道碑

明石藩五代藩主松平忠国は、明石が『源氏物語』の舞台となっていたことから、明石の地に様々な『源氏物語』にちなんだ名所を整備しました。

光源氏月見の池　朝顔光明寺

境内にある池に映る月に　光源氏はひどく賛美し　歌を詠みました。

秋風に　浪やこすらん　夜もすがら

明石のうらの　月の朝霧

光源氏月見の松　岩屋神社

元の松はすでに枯れて、その後植え付けられました。

元の松は大きな松で「盗人松」とも呼ばれ、中に盗人が隠れ住んだそうです。

他に　**蔦の細道**　**光源氏の館**(無量光寺)　西区にある明石入道の「**岡の館**」など。

善楽寺は、明石入道「**浜辺の館**」跡とされ、松平忠国は明石入道の碑を建て、自作の和歌をそれに刻ませました。高さ約２メートルの立派な宝塔です。

松平忠国自詠の歌

いにしへの　名のみ残りて　有明の

あかしの上の　おや住みしあと

■『源氏物語』第 13 帖<明石>、「浜の館」の様子について記されています。

所のさまをばさらにも言はず、作りなしたる心ばへ、木立、立石、前栽などのありさま、えも言はぬ入江の水など、絵に描かば、心のいたり少なからむ絵師は描き及ぶまじと見ゆ。

訳：（浜の館は）天然の景勝はいうまでもなく、こしらえた趣向、木立、（庭園の）立て石、前栽などの様子、何とも表現しがたい入江の水など、もし絵に描いたならば、修業の浅いような絵師ではとても描き尽くせまいと見える。

【本文と訳は　渋谷栄一先生の web サイト『源氏物語の世界』より引用】

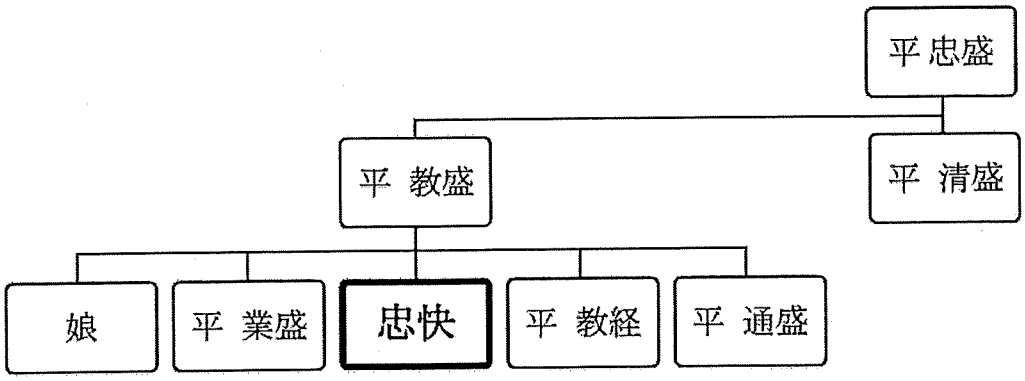
入道の住まいは都の高貴な人々の邸宅にも劣らず、華やかで美しくきらびやかな様子は、入道の邸宅のほうが勝っていると思われるのでした。

平清盛　五輪塔

高さ3,36メートルの花崗岩の五輪塔で鎌倉時代の作です。
<明石市指定文化財>
（上部の空輪・風輪は？火輪・水輪は◎地輪は？）

まだ源平合戦の最中であった養和2(1182)年に、善楽寺の僧だった忠快が建立したものと伝えられています。
忠快は、平清盛の弟・平教盛の子で甥にあたります。
忠快は、壇ノ浦の戦いで捕虜となり、伊豆国へ流されましたが、源頼朝の帰依を受けて帰洛しました。
源実朝も帰依し、関東に招いていたそうです。

左側に見える石標には「平相国清盛之菩提塔」と刻まれています。

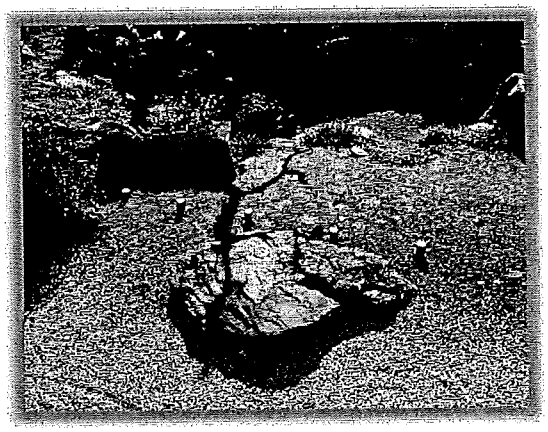


圓珠院（えんじゅいん）　庭園

武蔵作庭

剣豪宮本武蔵（1584～1645）は明石の町割りだけでなく、旧明石藩下ではこの圓珠院の他に明石城（あかしじょう）内、本松寺（上ノ丸）、雲晴寺（人丸町）、福聚院（ふくじゅいん）(西区)の作庭に携わったと言われています。

庭は本堂の正面南側に位置し、道に接していますが、周辺は戦災などで幾度となく改築や移築をされていますので、当初の建物との位関係は定かではありません。比較的小ぶりな庭ですが、庭園要素として、大小の築山（つきやま）、雌雄（しゆう）の滝、遠山石（えんざんせき）、蓬莱石（ほうらいせき）、瓢箪型（ひょうたんがた）の池が組み込まれているのは本松寺とよく似ています。



⇧ 礼拝石

⇧ 自然石橋

庭の型式（枯池式枯山水庭園）

庭の北端に①礼拝石（らいはいせき）を置き、南に庭園を眺めます。 前面に②岩島のある③瓢箪型の枯池を配し、左手に④築山を設け、頂上に⑤遠山石、 そしてそこから流れ落ちる⑥大滝（雄滝）が、最大の見せ場となっています。 石組みは本松寺に比べて、力強く感じます。水の流れと共に視線が⑨自然石橋へ向かい、 ⑩小滝（雌滝）、⑪船着き石へと景観を楽しむ事ができます。 ⑫蹲踞（つくばい）の石組みなども補設され、丁寧に管理されています。門からすぐに見ることができ、お寺には解説書も用意されており、気軽に名庭園を鑑賞することが出来ます 。

⇧ 雌滝（めだき）

⇧ 雄滝（おだき）

⑤遠山石
④築山
⑧蓬莱石
⑥大滝（雄滝）
⑩小滝（雌滝）
⑪船着き石
⑦水分石
⑨自然石橋
⑫蹲踞
②岩島
③枯れ池
①礼拝石

浄行寺（じょうぎょうじ）

浄土真宗
本尊　阿弥陀如来

浄行寺は、永正8年（1511年）、大阪で正円法師が開基しました。

慶長19年（1614年）2月に大坂の冬の陣で兵火にかかり、当時の4世住職正源がのがれてきて、現在の地に阿弥陀如来を安置したといわれています。

寛永18年（1641年）3月に正源和尚は大阪に帰り、島の内に常住山浄行寺を建て、長男の正益をそこに住まわせました。そして、次男正順を明石に帰しました。正順は蓮如上人より賜った木仏を安置して、教化に務めました。

第13世正海の夫人は11代藩主松平直泰（なおひろ）の15男直寳（なおみち）の娘、日都（かつ）であったため、葵紋入りの盃等が残されています。

昭和20年7月6日の夜半より早暁にかけて、B29の焼夷弾攻撃で明石市の大半は焦土となり、当寺も本堂庫裏を焼失しました。しかし、本尊や過去帳は避難させており無事でした。昭和38年（1963年）5月25日に明石で最初のコンクリート造りの本堂が落成しました。

この寺の墓所には丁稚羊羹や分大餅の発明者藤江屋文大夫の墓があります。

宝物は親鸞聖人御自作の木造、蓮如上人の真筆六字名号、明石城下図、葵紋入り盃等があります。

第2回あかし歴史のまち「文化財ウォーク」ブックリスト

2023年11月18日

今回の明石漁港～源氏物語ゆかりの文化財を巡るルートでご紹介した本や、
紹介スポットのことをもっと知ることができる本をご紹介します。
あかし市民図書館に所蔵していますので、ぜひご利用ください。

	タイトル	著者名	出版社名	資料番号	請求記号	備考
ピックアップ	明石の城下町	明石民俗文化財調査団／編集	明石民俗文化財調査団	10358984	K 216.4	―
	新明石の史跡	明石文化財調査団／編集	あかし芸術文化センター	07053051	K 29	館内利用
	明石の寺宝	神戸新聞明石総局／編	明石仏教青年会	09610106	K 18	―
	源氏物語と明石氏系譜	中村寿夫／著	中村寿夫	08803587	K 216.4	館内利用
	明石の風物　V 源氏物語の伝説と遺跡	山口徳二郎／撮影	高橋政晴	09050527	K 29 17 5	書庫/館内利用
今回のコース周辺が分かる本	城下まちあるきマップ	ヘリテージ明石／編集	ヘリテージ明石	10342806	K 291.6	―
	ふるさとの古寺と史跡をあるく	"ふれあい漫歩"グループ／編集	"ふれあい漫歩"グループ	10446953	K 216.4	―
	石に刻む	橘川真一／編	明石仏教青年会	06245963	K 71	―
	明石の文化財	明石市教育委員会／編	明石セントラルライオンズクラブ	06673891	K 70	―
	明治天皇行幸記	―	光明寺	06667166	K 28	館内利用
	明石の歴史　第2号	明石市史編さん委員会／編集	明石市市民生活局文化・スポーツ室文化振興課	10385466	K 216.4	―
	写真集明治大正昭和明石	黒田義隆／編	国書刊行会	05733191	K 23A	書庫
	はりまの風土と文化	寺林峻／著	聚海書林	05743042	K 291.6	―
	倉田百三の生涯	中西　清三／[著]	春秋社	05222245	910.2 ｸﾗ	書庫
	出家とその弟子	倉田　百三／作	岩波書店	08700700	K 92	書庫/館内利用
	明石	稲垣足穂／著	木村書店	05740204	K 29 16	館内利用
	人物で読む源氏物語　第12巻	上原　作和／編集	勉誠出版	08742678	K 913.3	―
	日本傳説　明石の巻	藤澤衛彦／著	日本伝説叢書刊行会	06666515	K 38 17	―
	わが町明石	―	明石市立高齢者大学校あかねが丘学園ふるさと学科	05733175	K 216.4 58	―

※図書館の本には、分類によって請求記号が付けられています。
本を探す際には、図書の背に貼ってある請求記号を参考にしてください。（今回の本は”ふるさと資料コーナー”にありますが、備考欄に書庫と記載があるものについては職員にお尋ねください。）

※一部、館内閲覧のみ(貸出不可)の資料がございます。あらかじめご了承ください。

あかし市民図書館